

AIを活用した光学衛星とSAR衛星データによる 固定資産異動判読調査業務の効率化

実証プロジェクト分野（あてはまるものに○）
農林水産業、自動運転、環境、防災、インフラ維持管理、交通、物流、
金融・保険、スポーツ、国土強靱化（その他（地方自治体業務））

サービス利用者名

長野市

サービス提供者名

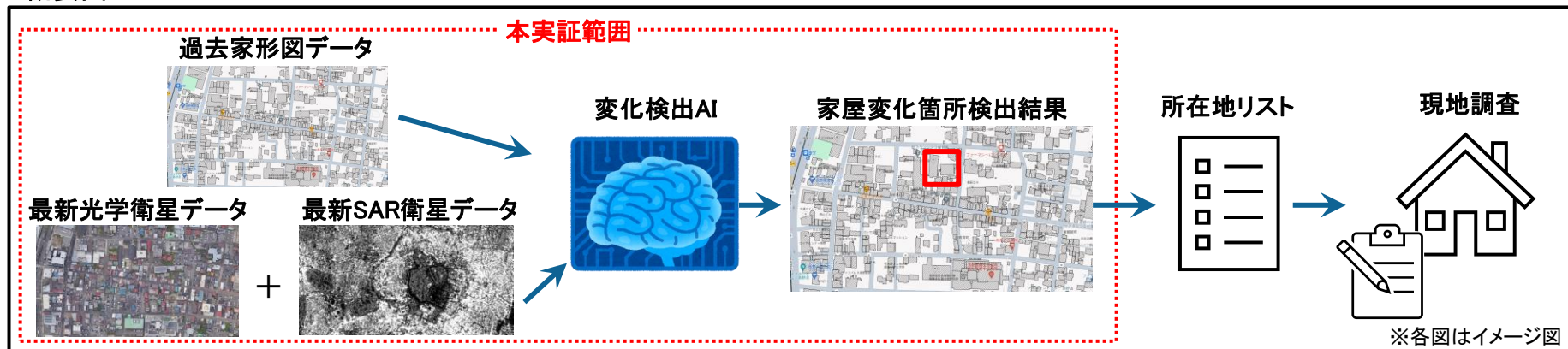
株式会社Ridge-i

プロジェクト概要(200文字程度)

高解像度衛星データ(光学およびSAR)とAIを活用して、地方自治体の固定資産異動判読調査業務における課題解決を目的とした新たなサービス開発を行うための実証を提案する。具体的には、衛星データとAIを活用し、上記業務に関わる航空写真取得、解析コスト、職員による目視確認に係る人件費を削減する。長野市を対象に技術実証を行い、結果を基に他自治体へ早期展開し、事業採算性を確保できるサービス実現を目指す。

プロジェクト詳細(実証概要と効果等を図表等を用いて説明)

■概要図



■背景と狙い

■課題

- ビジネス面
 - 既存の航空写真データ取得コストが高い
 - 家屋変化箇所検出コストが高い
 - 検出結果に対し人の目視確認が必要
- 技術面
 - 家屋変化箇所検出結果に課税対象外の誤検出が発生(例:カーポート等)

■解決

- ビジネス面
 - 衛星データを活用しデータ取得コストを削減
 - 家屋変化箇所検出業務をAIにより一部代替
 - AIの検出精度を上げることで、人の目視確認のコストを削減
- 技術面
 - 高分解能光学衛星とプラスチック素材を透過しやすい性質を持つSAR衛星を組み合わせることで、検出精度向上が図れるかを検討

■ビジネスモデル・期待される効果

- ビジネスモデル
 - 航空写真に比べ取得コストが安く、データ購入範囲を柔軟に設定可能という衛星データの強みを活かし、AIも効果的に活用することで、データ取得、分析のコスト削減を図る
- 期待される効果
 - 長野市で数千万円、横展開後は日本全体で数十億円の地方自治体コスト削減効果を見込む